

Interdisciplinary Exchange Workshop for Future of All Asian Countries 2025 (IEWF-AAC2025)

岩手大学理工学部 高橋 克幸

1. 概要

2025年10月8日～11日、岩手大学において、学際国際会議「Interdisciplinary Exchange Workshop for Future of All Asian Countries 2025 (IEWF-AAC2025)」が開催された。本会議は、アジア各国で活躍する若手研究者が領域横断的に交流し、新たな学術分野を共創する国際的な研究プラットフォームの形成を目的としている。

本会議は、観光庁「将来の国際会議主催者育成のための地域・大学連携等促進事業」の支援のもと、岩手大学ならびに Committee of IEWF (代表: 岩手大学・高橋) が主催した。本会の静電気・高電圧・放電・プラズマ若手研究委員会も共催となっている。また、東北6県の国立大学が連携して実施している「学際融合グローバル研究者育成東北イニシアティブ」における若手研究者ネットワークを基盤とし、理工学・農学・法学・人文社会科学など多様な分野の若手研究者(45歳以下)を国内外から招聘した。参加者は研究者60名(内、海外在住24名)、URA 8名、事務・技術職員を含むスタッフ17名に、35名の聴講者を加え、合計120名であった。

2. 会議の内容

本会議では、前述の趣旨を踏まえ、通常の国際会議とは異なる多様な取り組みを実施した。初日は、Justice and Society Session for Future として法学分野の参加者が調整した盛岡少年刑務所および、電気分野の主催者が調整した四十四田発電所へ訪問し、現地での議論を行った。これと並行して、東北各大学のURA向けセッションを設け、大学運営や若手研究者支援について議論がなされた。当日のレセプションはIce Breaking Sessionとし、多くの参加者同士が自己紹介できるよう仕組みを整えることで、会議期間中の交流を円滑にするよう工夫されていた。

会議では、通常の国際会議で見られる講演形式として、プレナリートーク7件(動物栄養学、鉱山廃棄管理、プラズマ理工学、物性物理学、ナノマテリアル、犯罪科学、粉

体工学)、Female Researcher Session for the Future of Plasma Science としてプラズマに関する招待講演3件、ジョイントセッションとして岩手大学・銀河レクチャー(材料表面工学)にて1件の講演が実施された。また、本会議に特徴的な取り組みとしてTable Sessionスタイルを採用した。これは、6～7名程度が同じテーブルに集まり、ノートパソコンを用いて自身の研究を他分野の研究者に説明する形式である。初めての参加者同士でも密度の高い交流が可能となり、共同研究等への発展につながっている。

バンケットはFood and Culture Sessionとして、さんざ踊り、わんこそば、多種の日本酒などを通じて盛岡市の食と文化を体験するとともに、参加者が各国の食と文化に関するプレゼンテーションを行う機会を設けた。また、エクスカージョンはAgricultural and Environmental Sessionとして、小岩井農場およびバイオマスパワーしずくいしを訪問し、畜産・農業に加え、食品循環系バイオガスプラント等について知見を得た。さらに、最終日のFarewell Partyでは、将来的にこのつながりを継続できるよう、SNSを活用したネットワークづくりを行った。

このような交流重視型の会議形式と地域文化を取り込んだプログラムにより、参加者間の交流を促進するとともに、アジア地域が直面する社会・環境・産業課題の解決、学際・国際共同研究への発展などに関して深く議論された。

3. まとめ

本会議は、多分野が集う学際的国際会議であり、これまでにない枠組みとして新しい形式を切り拓く会議であった。次回は2026年10月にバリ島での開催を既に予定している。多分野との連携研究が進められている点で、静電気学会としても親和性が高い。若手研究者の皆様には、ぜひ参加いただき、新しいアイデアの創出や異分野連携研究の発足等に活用いただきたい。



図1 シンポジウムの様子